

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.23 2010年1月10日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。年末年始を過ごしたキャンプ場で、十年ぶりに餅つきをしました。実家では年末30日の年中行事で、物心ついた頃からの楽しかった記憶も鮮明。身体に染みついた杵の感触は今だ健在で、取り巻きの大なる尊敬を勝ち得、ちょっぴり誇らしい気分でした。屋上での星見もいけれど、いつかお正月、神学校の中庭でワイワイしながら餅つきをやりたいな。考えただけでワクワクしてきます。

「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう」（詩篇133:1）

校長 関野祐二

● 年度末に向かい、神学校は

10月のオープンキャンパスには予想を超える来校者が訪れましたが、その勢いは衰えることなく、今年度は早々^{はやばや}と入学当確(?)の方々が複数与えられています。幸い(!?)、学生会のクリスマス会は外部非公開なので(制限はしてないのですが)、例年にも増して鮮烈だった出し物に^{つまづ}躓く見学者もおらず、平穩に越年。これからが問い合わせと願書発送の本番です。今年は専門科7名が卒業予定ですから、せめて同数の入学者、いやそれ以上の方々をお迎えしたいですね。在校生も、1月末までに今後の学びの予定(進級、編入、聴講終了など)を申請するので、個人面談開始と相まって、おのずとこちらもお祈り深くさせられます。どうか、一番ふさわしい形態で学びを継続し、あるいは学びをまとめて、主イエスさまと教会に仕える働きへと備えてください。

9月に札幌で行われた第五回日本伝道会議以来、これからの神学校教育とはどうあるべきか、通奏低音のようにいつも考えています。都心に残された数少ない福音的神学校、しかも摂理的に多様な学び方を可能とするシステムを受け継いできた本校はどうあるべきか、と。10月の学期休み中に出席したある会議で、尊敬する某神学校校長が「手本より見本」という明快なメッセージを開会に取り次ぎ、これはぜひと心に響くものがあり、メールでパクリ(?)の許可を得、オープンキャンパスの我がメッセージの一部に使わせていただきました。手本だと肩に力が入るが、見本ならパウロに倣い、自らへの主のあわれみを証しすればOK(1テモ1:16)。要は徹底的に福音に生かされ、福音に生きるということですよ。そんなこれからの方向性を思い描いています。

● ファミリーミニストリーっていいな

昨年10月半ばから、全10回の特別セミナー「ファミリーミニストリーⅠ」を開講しました。各回のタイトルを抜き書きすると、聖書が教える恋愛と結婚/神の御心と結婚・独身の祝福/結婚への準備と適応/クリスチャンホームの理想と現実/牧師家族のコミュニケーション/牧師夫人・女性教職の立場と役割/妊娠と出産・不妊・養子/乳幼児期の子育てと親子関係/ホームス

クール・チャーチスクールと学校教育／信仰継承といのちの教育。どうです？ 出てみたくなりませよ。毎回、木曜午後になると、通用口から在校生が（熟年男性も若干名）、女子寮から寮生が、外部から卒業生や牧師夫人がいそいそと集まり、とっておきのお菓子（木曜午前のA先生とI先生には食べちゃダメと釘差し）と飲み物が用意されて、講師の杉本玲子先生登場。学びや分かち合いは大いに盛り上がり、終了時刻を越えてもいっこうに終わる気配なし。中身はドア越しでわかりませんが、すばらしい内容だったことは、帰り際の参加者の表情で十分うかがえました。子育てが一段落した今、自分の家庭はこれでよかったのか、考えさせられます（ショックを受けるので、セミナーには参加せず）。来年度もⅡを開講しますから、期待してくださいね。

● 4日は学び初め

予想はしていたのですが、新年4日からの後期授業再開は、音の聞こえないブーイングでした。ハッピーなんかかなどと聞こえのいい法改定で月曜日に休日が集中し、授業数確保のためやむを得ずの処置。新聞の投書によれば、一般大学でも事情は同じで困っている由。とは言え、休日返上で学びに追われる神学生たちに、世間では仕事始めなのだからとか、献身者に年末年始などない、などとうそびいたところで説得力なし。罪滅ぼしに（?）、せめて初日4日のチャペル担当は引き受けましょうと大見得を切ったら、なんと翌日の夜クラスに臨時休校が出て、ピンチヒッターよろしく連日のチャペル担当。二日連続の聖書講解でしたが、わざわざチャペル出席のため（ホントかな?）来校した学生に励まされ、新年4日から、みことばを愛する神学生とみことばを共有できる喜びをかみしめました。「チャペルありがとうございました」と何人もの方々に言われましたが、とんでもない。感謝すべきはこちらですよ。皆さんのチャペル担当にも感謝しています。え？ 感謝はもう十分だから、そうしょっちゅうチャペルに当てないでって？ そうはいきません。

● アガペー先生をめざして

昨年は入院騒ぎに加えて神学概論が20名の大所帯、レポート採点が間に合わず成績提出が大幅に遅れ、事務方に多大な迷惑をかけました（幸い家庭内は平和でしたが）。この後期は履修者が12名なので、なんとか間に合っています（赤だらけのレポートは間に合ってますって?）。日頃家族とダジャレ合戦をしているせいか、玄関先で神学生たちと話している中、「赤ペン先生」と呼ばれて、「いいや、アガペー先生と呼んでください」と思わず言い返し、「オオッ！」とため息まじりの反応。我ながらいいこと言ったなと悦に入った次の瞬間、こりゃたいへんだと自戒しました。果たしてイエスさまの愛で神学生を愛せるのか、と。先日来校された我が恩師M先生が、「神学校時代は、教師から徹底的に愛される経験を」とチャペルで語ってくださったことを思い出したのでした。パウロがあのコリント教会に「私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとしています」（Ⅱコリ 7:4a）と書き送った心を自らも共有したい、そう思います。あ、自分たちをコリント教会呼ばわりしたナ！、そんな深読みはしないでね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業する7名の学びと働きのため。在校生67名が、3月半ばまでの後期、支えられるように。来年度の入学希望者が多く与えられ、ふさわしい献身者が加えられるように。
- ・ 神学校の働きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員15名、運営委員3名、理事5名の働きが支えられるように。多くの支援者が備えられるように。